

高等学校

平成 15 年 度

# 教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教職員研修センター

平成15年度

### 教育研究員名簿

No	学校名	世話人	副世話人
		氏名	
1	都立玉川高等学校	安田 俊隆	
2	都立代々木高等学校	青地 由美	
3	都立新宿山吹高等学校	河合 和美	
4	都立赤羽商業高等学校	高山 昭彦	
5	都立昭和高等学校	岡田 政雄	
6	都立上水高等学校	遠山 裕之	
7	都立久留米高等学校	半坂 あや子	
8	都立東村山西高等学校	梶原 敏幸	
9	都立第五商業高等学校	生沼 清光	

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 上村 肇

## 目 次

研究主題の設定	2
全体構想	2
総合的な学習の時間～経年モデルプラン～	4
指導事例	6
1 未来像の創造～生き方を考える～	6
2 職業インタビュー	8
3 自己理解につなげる「2分間スピーチ」	10
4 一日大学体験入学	12
5 双方向遠隔授業を利用した「総合的な学習の時間」と「高大連携」	14
6 自由研究～課題解決型「総合的な学習の時間」～	16
7 ボランティア活動～高齢者介護を考える～	18
8 文化・教養と人間	20
9 トピック解説講座	22
研究のまとめ	24

## 研究主題

学校の特性や生徒の状況に応じた指導内容・方法の研究

～様々な自己実現へのアプローチを通して生徒の意欲を高める工夫～

### 研究主題の設定

平成15年度の入学者から高等学校では新教育課程が実施され、また、中学校で「総合的な学習の時間」を学習した生徒が入学してきた。「総合的な学習の時間」については、各学校がそれぞれ指導内容・方法を工夫して取り組んでいる。しかし、高等学校では、「総合的な学習の時間」の指導に教員が負担を感じている場合があるなど、様々な課題がある。

今年度の9人の研究員は、様々なタイプの学校に勤務している。「総合的な学習の時間」についても、研究実績を積んだ学校、試行錯誤をしている学校、さらにこれから開校する学校もあり、取り組みの度合いも異なっていた。

そこで、これらの諸条件を踏まえ、それぞれの学校で取り組んできた実践事例や各研究員の事例案を出し合い、今後の「総合的な学習の時間」を進めていく上で、他の学校でも参考になり利用できる「経年モデルプラン」を提示し、学校や生徒の状況に応じた指導方法を検討していくことにした。

学習活動の内容については、学習指導要領に示されている「生徒が興味・関心、進路などに応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動」や「自己の在り方生き方について考察する学習活動」を軸に、幅広く扱うことにした。

以上のことを踏まえ、今年度の研究主題を「学校の特性や生徒の状況に応じた指導内容・方法の研究」とし、生徒の自己実現を助ける様々なアプローチの仕方の効果的な活用方法を検討した。

### 全体構想

「総合的な学習の時間」で使われる「総合」や「生きる力」という語は、多様にとらえられている。これが今回、研究員の共通した認識であった。そこで、「総合的な学習の時間」はどうあるべきか、その在り方に具体性をもたせ、方向性を模索するという構想で私たちの研究はスタートした。

まず、「総合的な学習の時間」が高校で担うべき全体像を、入学から卒業までの長いスパンの中で作ることを目指した。現実問題として「総合」や「生きる力」という語が多様にとらえられていることは、一人一人の教員の「総合的な学習の時間」に対する取り組みの多様さとして現れる。「総合的な学習の時間」の指導事例を分かりやすく体系立てて示すことができれば、「総合的な学習の時間」における指導の系統性についての理解を深められる。このことは、「総合的な学習の時間」の指導計画を考える際に役に立てることができ、「総合的な学習の時間」の内容・方法などの一層の充実につながっていくと考えた。

まず、各研究員の現所属校あるいは前任校での指導事例や、取り組みたい、また、生徒の取り組む意欲が高くなりそうだと考えている構想中の教材などを挙げてみた。ここでは、多様な学校から集まったこともあり多くの事例が挙げられた。一つ一つの事例にはそれぞれの学校ごとの特色が反映され、工夫が凝らされており、生徒の自らの生き方に対する意識の啓発や知

的興味の掘り起こしに役立つものであった。

全体の指導事例を分類していくと、生徒に「育成したい力」について「自己理解」、「進路啓発」、「興味・関心」、「常識・教養」の4分野に整理することができた。また、それぞれの分野での指導の内容・方法をみていくと、指導を通して生徒に身に付けさせたい力としての「到達段階」について「自分を見つめる」、「視野を広げる」、「自分の生き方を実現する」の3段階に整理することができた。これを「育成したい力」と「到達段階」について表の形にまとめてみることにした。

この表は、各研究員が提示した指導事例を基に作成した表であり、「総合的な学習の時間」で扱うすべての内容を網羅するものではない。しかし、各研究員が提示した指導事例について、指導場面での力点の置き方はそれぞれの学校の実情を踏まえることになるが、生徒に「社会を構成する一人前の大人となるために培ってほしい力」を育てる指導事例として一般化を図ることは可能であると考えた。そして、4つの「育成したい力」について、指導の段階ごとにどのような具体的な指導内容等があるかを例示して『経年モデルプラン』として示し、「総合的な学習の時間」の案内図のようなものとして現場で活用できることを目指した。なお、『経年モデルプラン』に示したものには、指導内容と指導方法の双方が含まれている。

この『経年モデルプラン』は、指導の段階を整理したものであるため、学校や生徒の状況などにより、同じ指導事例でも扱う学年が異なる場合がある。また、学校により、それぞれの「分野」を扱う場合にも「総合的な学習の時間」の指導計画での配当時数などは様々になるため、『経年モデルプラン』の一部のみを活用することも可能である。

4つの「分野」は次のとおりである。

分野	自己理解	自分自身を客観的に見つめる目を育て、各自の適性に基づいて自己実現を図ることができる能力を身に付ける分野
分野	進路啓発	望ましい職業観の育成を目指し、自らの進路を主体的に選択、決定していくことができる能力を育成する分野
分野	興味・関心	自分の興味・関心から出発した自由研究などの活動を通して、「知」の啓発につなげていく分野
分野	常識・教養	社会人として必要な一般常識や、安全に生きるために必要な知識・技能を身に付ける分野

また、3つの「STEP」は次のとおりである。

STEP 1	自己を見つめよう	入門期
STEP 2	視野を広げよう	発展期
STEP 3	自分の生き方を実現しよう	完成期

次のページから、『経年モデルプラン』及び指導事例を示す。なお、指導事例については、すでに試行校において実践されたものと、研究員が提案するものの双方が含まれている。

各指導事例の「評価について」の欄には、具体的な評価基準を示している。その際、平成14年度「東京の教育 21 開発委員会報告書」145ページに記載されている「総合的な学習の時間における評価の全体構成(例)」を参照し、【】内に「評価」「観点」「評価項目」を合わせて示した。

# Ⅲ 総合的な学習の時間 ～経年モデルプラン～

	I 自己理解	II 進路啓発	
STEP 1 自分を見つめよう	<b>自己理解①</b> ☆自分の生き方を探る ・適性検査 ・他者分析 ・ブレインストーミング ・自分史作り ・自己理解カルテ ・ジョハリの窓 ・生き方を考えるレポート ○未来像の創造～生き方を考える～ 【指導事例1】	<b>自己と社会を見つめ将来を考えよう</b> ☆進路に関する情報を集める ・課題作文「10年後、20年後の私」《動機付け》 ・自校の「進路の手引き」を活用しての進路活動の理解 ・進路適性検査 ・進路説明会(卒業までの進路計画) ・卒業生を囲む会 ・進路指導関連ビデオ鑑賞 ・進路希望調査 ・評定平均・調査書説明会 ・科目選択と進路	
		<table border="1"> <tr> <td> <b>&lt;職業を知る&gt;</b>                ・職業ガイダンス                ・職業分野別説明会                ・職業啓発セミナー                ・職業適性検査①             </td> <td> <b>&lt;上級学校を知る&gt;</b>                ・大学・短大学部学科紹介                ○一日大学体験入学【指導事例4】                ・専門学校説明会                ・シラバス調査             </td> </tr> </table>	<b>&lt;職業を知る&gt;</b> ・職業ガイダンス ・職業分野別説明会 ・職業啓発セミナー ・職業適性検査①
<b>&lt;職業を知る&gt;</b> ・職業ガイダンス ・職業分野別説明会 ・職業啓発セミナー ・職業適性検査①	<b>&lt;上級学校を知る&gt;</b> ・大学・短大学部学科紹介 ○一日大学体験入学【指導事例4】 ・専門学校説明会 ・シラバス調査		
STEP 2 視野を広げ体験しよう	<b>自己理解②</b> ☆他人の生き方に触れる ・進路講演会(働くことの意義) ○職業インタビュー【指導事例2】 ・他の人から学ぶ生き方 ・映画から学ぶ生き方	<b>調査と体験を繰り返し進路希望を確定しよう</b> ☆進路に関する体験や調査を行う ・評定平均予測計算① ・科目選択と進路 ・進路説明会(進学と就職)	
		<table border="1"> <tr> <td> <b>&lt;職業を体験する&gt;</b>                ・職業研究                ・就業体験             </td> <td> <b>&lt;上級学校を体験する&gt;</b>                ・上級学校研究                ・大学出前授業体験                ・体験入学                ○高大連携【指導事例5】             </td> </tr> </table>	<b>&lt;職業を体験する&gt;</b> ・職業研究 ・就業体験
<b>&lt;職業を体験する&gt;</b> ・職業研究 ・就業体験	<b>&lt;上級学校を体験する&gt;</b> ・上級学校研究 ・大学出前授業体験 ・体験入学 ○高大連携【指導事例5】		
STEP 3 自分の生き方を実現しよう	<b>自己理解③</b> ☆生き方を具体化する ・志望動機の具体化 ・進路講演会(生き方を具体化する手段) ・卒業後の自分 (高校生活の振り返りと卒業後の抱負)  ☆総括 ○2分間スピーチ【指導事例3】	<b>自己表現力の充実を図り、進路希望を実現しよう</b> ☆進路希望を実現するための能力を高める ・評定平均予測計算② ・表現方法の研究 ・発表会 ・進路説明会(進路希望別説明会)	
		<table border="1"> <tr> <td> <b>&lt;就職&gt;</b>                ・就職者ガイダンス                ・職業適性検査②                ・求人票説明会                ・志望動機作文の作成                ・面接練習                ・就職試験学習                ・履歴書記入練習             </td> <td> <b>&lt;進学&gt;</b>                ・入試ガイダンス                ・大学生による進路相談                ・志望動機作文の作成                ・面接練習                ・進学試験学習                ○高大連携【指導事例5】             </td> </tr> </table>	<b>&lt;就職&gt;</b> ・就職者ガイダンス ・職業適性検査② ・求人票説明会 ・志望動機作文の作成 ・面接練習 ・就職試験学習 ・履歴書記入練習
<b>&lt;就職&gt;</b> ・就職者ガイダンス ・職業適性検査② ・求人票説明会 ・志望動機作文の作成 ・面接練習 ・就職試験学習 ・履歴書記入練習	<b>&lt;進学&gt;</b> ・入試ガイダンス ・大学生による進路相談 ・志望動機作文の作成 ・面接練習 ・進学試験学習 ○高大連携【指導事例5】		

○で示しているものは、指導事例が本報告書に掲載されている。

III 興味・関心		IV 常識・教養		
STEP 1 自分を見つめよう	<b>自由研究①(入門・基礎) 調べる楽しさや方法を知ろう</b> ☆調べ方を学ぶ ・インターネット講習会 ・図書館利用指導 ・新聞を使った自由研究 ・レポート作成指導 ☆興味のあることを調べる ・興味・関心アンケート ・自由研究 ☆調べた事をまとめ発表する ・レポート作成 ・発表会 ☆様々な体験から世界を広げる① ○ボランティア活動【指導事例7】 ・各種講演会 ・旅行計画	<b>興味・関心の方向を知ろう</b> ☆興味・関心事を発見し研究する ○講座別体験学習・課題学習① 【指導事例6】 【指導事例8】	<b>生きるための基礎知識を身に付けよう</b> ☆基礎知識を身に付ける ・タバコ・薬物講習会 ・救急法講習会 ・リサイクル講座 ・交通安全講習会 ・防災訓練 ・サバイバル講座 (水作り、ロープワークなど) ・消費者講習会 (悪徳商法の手口など)	<b>人間と社会を学ぶ①</b> ☆広い世界に目を向ける ・トピック解説講座(入門編) ・新聞要約 ・レポート集の作成と発表会 ・映画、書籍等紹介
	<b>自由研究②(応用) 主体的に考え、調べ、まとめよう</b> ☆自由にテーマを設定し研究する ・修学旅行自由研究 ・自由研究 ☆研究成果をまとめ発表する ・論文作成 ・発表会 ☆様々な体験から世界を広げる② ・ボランティア活動 ・各種講演会 ・旅行計画	<b>興味・関心の方向を知ろう</b> ☆集団で活動する楽しさを発見する ○講座別体験学習・課題学習② 【指導事例8】	<b>コミュニケーションのためのマナーを身に付けよう</b> ☆マナーを身に付ける ・電話のかけ方講座 ・手紙の書き方講座 ・訪問のマナー講座	<b>人間と社会を学ぶ②</b> ☆知識を深め経験を積む ○トピック解説講座(発展編) 【指導事例9】 ・新聞要約 ・レポート集の作成と発表会 ・映画、書籍等紹介
	<b>自由研究③(完成) 研究や発表に磨きをかけよう</b> ☆卒業論文に挑戦する ・「卒業論文集」作成 ・「卒業生からのメッセージ」発表会 ☆様々な体験から世界を広げる③ ・ボランティア活動 ・各種講演会	<b>興味・関心の方向を知ろう</b> ☆課題学習へ主体的に取り組む 講座別体験学習・課題学習③	<b>一人立ちできる社会人になろう</b> ☆社会人の素養を身に付ける ・ボランティア講座 ・健康講座	<b>人間と社会を学ぶ③</b> ☆自分の力で判断する ・小論文③ ・トピック解説講座(完成編) ・新聞要約 ・レポート集の作成と発表会 ・映画、書籍等紹介
STEP 2 視野を広げ体験しよう				
STEP 3 自分の生き方を実現しよう				

## 指導事例

### 1 未来像の創造～生き方を考える～[ 自己理解：STEP 1 ]

あなたの幸せな人生の費用を計算しよう

#### ( 1 ) 設定の理由

小学校時代には「夢をもとう」、中学校時代には「将来の目標を描いて高校選びをしよう」と励まされ、目的意識を明確にもつことができた生徒がいる。しかし、その反面、「自分の目標がもてない」ということに劣等感をもってしまった生徒もいる。ここでは、後者のような生徒に、将来の目標が明確に見えなくても、自分の人生に向き合うためのきっかけを提供したいと考え、このテーマを設定した。

#### ( 2 ) ねらい

これまでの自分を振り返りながら、今の自分があるのは様々な意思決定があったからだということを理解し、自分の意思決定が重要なことを自覚する。

これからの人生について、自分なりの幸せという観点から考え、重要となる意思決定の条件や時期についてふれる。

ワークシート作成過程での話し合いや発表会などを通して、他者の描いた幸せにふれることで、様々な価値観があることを理解し、自分を見つめるきっかけとする。

幸せな人生を思い描いた後、それにはどれくらいの費用を伴うのかについて検証し、人は働かなければならないという職業意識をもつきっかけとする。

#### ( 3 ) 展開

準備するもの

ア ワークシート(資料参照)

イ 各種シール(結婚、出産、就職、趣味、旅行などを表すシールをワークシートに貼っていくので、生徒が楽しみながら利用できるものがよい)

ウ 各種統計資料(生徒が自分の将来を想像する時の参考となるような統計資料)

(ア) 18歳から40歳までの平均年収 (イ) 平均結婚年齢

(ウ) 賃貸住宅の家賃 (エ) 一人暮らしにかかる平均的な費用

(オ) 平均結婚費用 (カ) 子育てにかかる費用 (キ) 平均寿命 など

生徒の活動内容(ア～ウで1時間、エ・オで1時間を基本とする)

ア これまでの自分を振り返る

生まれてからこれまでの人生で、自分が重要だと思う出来事、楽しかった事、悲しかった事など思い出に残っている事を、シールを貼りながらワークシートに記入する。

イ これからの人生を考える

自分が思う幸せな人生の条件を考え、シールを貼りながらワークシートに記入する。

ウ 他者と交流する

これらの作業を一人で行いたい生徒はそのままよいが、他者との話し合いを希望する生徒は、授業の妨げにならない範囲で他者と交流しながらこれからの人生を考える。

エ 幸せな人生の費用を計算する

準備した統計資料を活用し、自分が描いた幸せな人生に必要な費用の概算や、平均給与などから想像される自分の収入について計算し、ワークシートの損益計算書に記入する。

オ 幸せな人生の費用を稼ぐ方法を研究する

ワークシートに記入した概算費用をどのようにして賄うかについて、統計資料を活用して研究する。

③ 指導上の留意事項

- ア 作業を通していろいろなことに気付くことがねらいなので、生徒が現実性のない将来を描いても否定せず、それを出発点としてとらえ、現実にも目を向けさせるよう導くことが重要である。
- イ 「普通の人生でよい」というような記述をする生徒に対しては、それを否定するのではなく、その価値を認めながら、どのように生きていくかについて考えさせるように工夫する。
- ウ 他者の視線を気にして記入しない生徒もいるので、作業中の生徒の様子を注意深く観察する。

(4) 評価について

<評価基準> (【】内は、順に「領域」「観点」「評価項目」)

- ① 人生において、自分の意思決定が大切であるということに気が付いたか。  
【情意・関心・課題発見力】
- ② 人生において大切にしたいものについて考え、それを得るために必要な事やその時期について考えたか。【知力・思考・課題解決力】
- ③ 人生について、様々な価値観があることを理解したか。【知力・判断・価値判断力】
- ④ 働かなければならないという意識をもつことができたか。【情意・態度・社会性】
- ⑤ テーマに沿って積極的に考えたか。【情意・意欲・積極性】

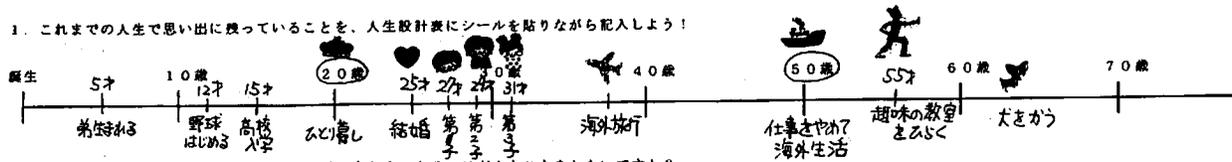
(5) 考察

このテーマは、「Ⅰ自己理解」の導入として設定したが、その他の分野への広がり期待できる内容である。たとえば、幸せな人生の条件の中に、「趣味をもつ」というような内容があったとすれば、「Ⅲ興味・関心」の分野へ広げるきっかけになる。また、幸せな人生に多額の費用がかかるという内容になった場合には、その費用をどのようにして稼ぐのかという視点から、進路啓発へと結び付けていくことも可能である。

今回は、「幸せな人生」というテーマを用いたが、目の前にいる生徒の状況によって、どのような導入を用意するかは異なる。「憧れの人の生活を研究する」、「各界で成功した人の意思決定に学ぶ」など、生徒が抵抗なく受け入れられるテーマを研究することも重要である。

(6) 資料 (ワークシートの一例)

1. これまでの人生で思い出に残っていることを、人生設計表にシールを貼りながら記入しよう!



2. あなたにとって、幸せな人生には何が必要ですか? あるいはどんなことをしたいですか?

- その1 家族                      その2 結婚 子供3人                      その3 海外旅行                      その4 海外で住む  
 その5 うまいものを食べる                      その6 お金をためる                      その7 犬をかう                      その8 \_\_\_\_\_

これらのことをいっごう実現したいですか? 上の人生設計表にシールを貼りながら記入しよう!

3. 別紙資料などを利用して、あなたの計画した幸せな人生にかかる費用と、あなたの給料を計算し、損益計算書を作成しよう!

幸せな人生の損益計算書 (30代前半をイメージ)  
31才のあす1ヵ月

生活に係る各種の費用	金額	取入	金額
マンションのローン	100,000	給料	300,000
食費	100,000		
水道光熱費等	30,000		
子どものための積立	70,000		
趣味つきあい	50,000		
貯金	50,000		

## 2 職業インタビュー〔 自己理解：STEP 2 〕

### ( 1 ) 設定の理由

「経年モデルプラン」の 自己理解のSTEP 2は、視野を広げる学習によって自己理解の深化を図る段階である。職業インタビューは、家族、知人など身近な人の生き方に触れる学習として設定した。仕事に対する情熱や苦勞、やりがいを語る姿に触れ、働くことの意義を知ること、高校生活で同年代の友人と過ごす経験だけからでは得られない貴重な心理的啓発を受け、自己実現にフィードバックさせていく一助としたい。

### ( 2 ) ねらい

「働く」とはどういうことか、仕事にはどのようなやりがいや苦勞があるのかを知る。

職業についての興味・関心を深め、自己の未来像を描く手がかりとする。

どういう職業が自分に向いているのか、その仕事に就くためには自分をどのように変えていけばいいのか、自ら課題を見付け考察を深めていく。

今、自分は何をしなくてはいけないのか、より具体的な自己実現の方法を模索し、実行に移す契機とする。

### ( 3 ) 展開 ( 生徒の活動内容 ) は教師の働きかけ

#### 職業選びとイメージ学習 ( 1 時間 )

インタビュー対象は、家族、知人など身近な人を選ぶ。自分が将来就きたい職業に従事している人であれば最も望ましい。

その職業についてどんなイメージをもっているか。人と接することの多い仕事など、具体的にあげ、同じ職業についてインタビューする者同士でイメージの情報交換をする。

その職業にどんな人が向いているかを考察する手がかりとして、インタビューする相手のどういう点 ( 特技など ) がその職業に向いているのかを考える。

インタビューワークシートを配布し、抽象的ではなく、なるべく具体的に書かせる。

#### 質問項目の検討 ( 1 時間 )

どんな質問をするのか、具体的な質問 ( 素朴な疑問も軽視しない ) を考えてみる。

同じ職業をインタビューする者同士を集め、共同で質問を考えさせてもよい。また、質問が具体的に思いつかず、学習の能率が思わしくない生徒には、質問例をいくつか提示して、それに加えて、オリジナルの質問を数項目考えさせてもよい。【質問例】Q; どのような仕事ですか。Q; なぜその仕事を選んだのですか。Q; その仕事のやりがいは何ですか。Q; この仕事に就くにはどのような資格や学歴が必要ですか。Q; この仕事に向いているのはどんな人ですか。

#### インタビューの心構え ( 1 時間 )

インタビューの依頼の仕方、インタビューする際のマナーを考える。また、インタビューの答えをどういう手段で記録していくか等について、メモの取り方、録音や写真の活用など、具体的な方法を考える。「事前準備メモ」を作らせる。時間があれば互いにインタビューの練習をさせ質問の仕方に慣れさせる。

### インタビュー当日

放課後や夏休みを利用して職場訪問しインタビューする。質問時間は、20分～30分程度、相手の仕事に支障のない範囲のインタビューを心がける。可能なら職場見学をさせてもらう。

校長名での依頼文を持たせる。インタビューワークシートに丁寧にまとめるよう指示する。

### 報告ポスター作り(2時間)

インタビューした内容を、A3用紙に報告ポスターとしてまとめる。興味を引くタイトル、見やすい配列など、各自で工夫しながら、その職業の内容をいかに他の生徒に分かりやすく伝えるかを考えながらまとめていく。文字だけのポスターにならないようにレイアウトを考えさせる。

### 職業学習の発展とまとめ(1時間)

作成した報告ポスターを教室の壁に掲示する。自由に閲覧し、自分と同じ職業を調べた人のインタビュー内容から、共通点と相違点を見付け出す。インタビューから学んだことを中心に、その職業に対するイメージ、印象に残った言葉、初めて知ったこと、今後さらに知りたいことなどをまとめていく。また、自分が調べなかった職業のインタビュー報告の中から、興味が湧いたもの、知らなかった発見を書き出していく。数人に発表させてもよい。

## (4) 評価について

### <評価基準>

自分のもつイメージがインタビュー後に深まったか。【認知・理解・理解の深化】  
インタビューする対象の職業を決める際に、安易なものや、他人の真似ではなく、自分の興味・関心に基づく選択ができたか。【情意・意欲・創造力】  
質問項目に、興味・関心の深さが反映されていたか。【情意・意欲・実行力】  
インタビューに際し、質問者や職場への配慮をすることができたか。  
【情意・態度・共通理解】

職業の苦勞とやりがいを知ることができたか。【認知・知識・知識の獲得】  
報告ポスター作りを通じて、その職業の様々な側面を、他の生徒に対して、的確に、しかも興味深く伝えることができたか。【技能・表現・発表力】  
視野が広がる面白さを実感し、もっといろいろな職業について知ってみたい、調べてみたいという探求的な姿勢がみられたか。【情意・態度・達成感】

## (5) 考察

職場を訪れて実際に話を聞く体験は、その仕事について知らなかった様々な側面に気付くことができる貴重な体験である。この体験を通じて、「社会の一員として働くこと」の意義やたくましさ、厳しさに触れることができる。これは、今後、自分や社会を客観視できる目を養い、自己の可能性や生き方を模索する一助となっていく。身近な人々の職業観や生き方から学べることは数多く、その意味で『経年モデルプラン』の自己理解のSTEP2「視野を広げ体験する」という学習は、STEP1「自分を見つめる」学習からSTEP3「自分の生き方を実現していく」学習へと深化していくための学習として位置付けることができる。したがって、自己理解のSTEP2は、各校の生徒の状況に応じて、時間と内容を工夫しながらじっくりと取り組ませることが肝要なステップだと言えるだろう。

### 3 自己理解につなげる「2分間スピーチ」【 自己理解：STEP3】

#### (1) 設定の理由

人前で話をするを苦手とする生徒は少なくない。しかし「スピーチ」を軸とした活動を通して、生徒は自己の活動を振り返り、文章にまとめ、意とするところを相手に伝えるという貴重な経験を積み、様々なことを学ぶことができる。生徒は、授業や部活動、行事や委員会活動など毎日の活動に追われていても、その意味をとらえ直したり、そこから自分が何をきてきたかなどを改めて考える機会は思いのほか少ない。AO入試や推薦入試等で、高校生活で何を成し遂げてきたかを問われることも多くなっている。日々の活動を時には立ち止まってとらえ直し他へ向けて表現すること、また他の生徒の生き方、考え方に触れて自己の在り方を見つめ直すことはますます重要となっている。この指導事例は、卒業を目前に控えた生徒に、高校生活を振り返るスピーチを行わせるというものだが、他の時期での実施も可能である。同様の試みは「国語」や「公民」の「現代社会」、「倫理」の授業などでも行われているが、「総合的な学習の時間」に行うこの事例は、表現能力の向上などの各教科で取り上げる場合のねらいとは異なり、スピーチに取り組むことを手掛かりとして「自ら課題を見付け」「自ら考え、主体的に判断」することを通して自己の在り方生き方について深く考えさせ、今後の生き方にも結びつけていくという所に主眼を置くものである。

#### (2) ねらい

高校生活を振り返ることで、自己の在り方生き方についてより深く考える契機とする。

スピーチを通じて、文章作成能力、自己表現能力を鍛える。

他の生徒の実践、考え、発表から広く学ぶ態度を養う。

#### (3) 展開

項目	時間	内 容	指導上の留意点
導入	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員より、「高校生活を振り返って」という題での2分間程度のスピーチについて説明をする。</li> <li>・ 「高校生活を振り返って」のシートに記入しながら話すべき内容をまとめる。</li> <li>・ スピーチ原稿を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2分間(約800字分)という数字を出し、誰にでもできることを強調する。より長いスピーチをしようという生徒には、冗長にならないように配慮しながら、内容豊かなスピーチ原稿を作ることを推奨する。</li> <li>・ 「高校生活」を具体的に思い起こせるような資料を用意する。</li> <li>・ 原稿が作れない生徒には、「スピーチのやり方」の中の「スピーチ原稿例」を参考にさせる。</li> </ul>
本時	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1人ずつクラス全員の前で「スピーチ」を行う。</li> <li>・ 何人かのスピーチが進めば、刺激を受けて生徒自身が様々な工夫を凝らすようになる。</li> <li>・ 聞く側はクラス全員の名前が印刷された「スピーチの評価票」にスピーチの要旨、感想を書きとめるとともに、「話し方」と「内容」について評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員が行うよう指導する。</li> <li>・ 順番は申し出た順とする。率先して手を挙げた生徒には意欲を高く評価して励ます。</li> <li>・ まずはスピーチをやることで、話すことの「難しさ」「面白さ」を体験させる。</li> <li>・ 内容が大切であることを指導し、パフォーマンスだけにならないよう十分配慮する。</li> <li>・ 「スピーチの評価票」により、聞く側に評価の観点を示し、評価に取り組みやすくする。</li> </ul>

事後指導	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「スピーチの評価票」を提出。</li> <li>・ 他の生徒からの「評価票」を受け取る。</li> <li>・ 他の生徒の評価を受けて、改めて高校生活について総括する。</li> <li>・ 言いたいことを伝えられたか等「話し方」についても自己評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「コピー」を1部作成、生徒ごとに切り離して本人に渡す。</li> <li>・ 「スピーチを終えて」という題で作文を書かせてもよい。</li> <li>・ 時間的余裕があれば、優れた発表を選んで「学年集会」又は「卒業生を送る会」などの場で再演させることも考えられる。</li> </ul>
------	-----	---	--

#### (4) 評価について

この指導では、どれだけ充実した高校生活を過ごしたかについて優劣をつけるわけではない。その生徒がどんな高校生活を送ったにせよ、今回、卒業を前に入学からこれまでの高校生活を振り返り、「満足したこと」も「残念だったこと」も含めてありのままの自分の姿をしっかりと見据えることができたか、さらにそれを踏まえ未来に向けた望ましい自己の在り方をイメージすることができたか、そして、そうしたことをどれだけの確に他の生徒に伝えられたか、また、他の生徒の話に真剣に耳を傾け学ぼうとしたかをみていくことになる。

評価は以下の3つの方法で行う。

ア) 他の生徒のスピーチを聞いて互いに評価し合う。(相互評価)

イ) 他の生徒の評価を受けて改めて自分の高校生活について総括する。また、今回の「スピーチ」で伝えたいことがきちんと表現できたかを点検する。(自己評価)

ウ) 指導する教員は、評価基準のア)~エ)に従って今回の活動の総合的な評価を行う。

#### < 評価基準 >

「やり遂げたこと」「悔いが残ること」「感動したこと」などが正直に話されたか。

【技能・表現・発表力】

そうした体験を踏まえて「自己」の現在と未来について深く考えるができたか。

【情意・意欲・実行力】

「伝えたいこと」をきちんと表現できたか。【認知・理解・創造力】

真剣に聞いていたか、他の者から学ぼうとする意欲があったか。

【情意・態度・協調性】

#### (5) 考察

「経年モデルプラン」の「自己理解」の分野の指導としては、様々な方法が考えられるがこの事例は「スピーチ」を軸にして自己の在り方生き方に迫るものである。高校生活最後の時期に設定されているが、表現力の向上という点から考えると、高校生活の早い時期に設定することも考えられる。入学当初、もしくは進級時のクラス替えの際の自己紹介として、又は卒業年次の進路指導に対応した「自己アピール」の練習として実施することなどが考えられるだろう。ただ、卒業を目前に控えたこの時期には、生徒が生き方についての深い自己洞察を行い、質の高いスピーチが生まれる可能性が高いこと、スピーチを通じた生徒同士の交流の中で自他の生き方を真剣に考える雰囲気醸成しやすきことを指摘しておきたい。大掛かりな準備を必要としない取組みであるので、これに類した活動の実績がそれほどない学校でも、気軽に始められるという利点がある。しかも、たとえ短期間の指導であったとしても生徒に様々な力を付けることができる取組みであると考えられる。

## 4 一日大学体験入学 [ 進路啓発・STEP 1 ]

### (1) 設定の理由

今日、社会の変化の中で、いわゆるフリーターが増加するなど、生徒は高校卒業後の目標をもちにくくなっている。また、明確な目標がもてないために、高校生活の中で「生きる力」を十分に伸ばしきれずに卒業していく生徒も少なくない。そこで、生徒の個性を最大限に伸ばし、自己の人生についての考察を深めながら、卒業後も目標をもって、学び続け、伸びていく人間を育てていく「総合的な学習の時間」の在り方を検討した。

その一つの方法として、従来のクラスの枠を外し、同じ興味・関心をもつグループに分かれて調査・研究を行い、生徒が主体的に取り組めるような「総合的な学習の時間」の形を考えた。また、早い時期から卒業時点の自分のイメージをもち、それを出発点として「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決」していく機会として、大学と連携した行事を企画した。

次の事例は、大学進学を進路先の中心とする、明確な目的意識をもった生徒が多い場合を想定して考えた。

### (2) ねらい

大学についての具体的なイメージをもつとともに、何を卒業までに身に付けておくかを確認する。

体験入学を通して、進路に対する興味・関心を高める。

自ら探索していく具体的な方法を知る。

### (3) 対象年次・実施時期

1年生全員・5月～6月を予定

### (4) 展開

#### 事前準備

#### 第1時 一日大学体験入学オリエンテーション

一日大学体験入学のねらいや動きを確認し、受講講座の希望調査やキャンパスツアーのグループづくりを行う。また、自分の課題を見付ける。

#### 第2時 進路講演会事前学習

講演のテーマに対する質問事項を用意し、自分の課題を見付ける。

#### 第3時 社会人による進路講演会

第一線で活躍している社会人に、今、社会で求められている力や、自己の在り方生き方や進路を考えていく上での考え方などについて学ぶ。

#### 第4時 グループごとに質問事項の検討

体験入学での質問事項作りを通して、自己の在り方生き方について考察する。

#### 実施当日(第5時～第10時相当)

事前準備の2時間を受け、1年次5月に一日を使い大学の協力を得て実施する。

時間	学習項目	内容	指導上の留意点
60分	オリエンテーション 大学を知る	一日の動きや目的を確認し、大学の紹介を受ける。	必要な事項をメモさせる。
90分	模擬授業体験	語学・文学・法経・理工の4講座(各40分)から2講座を受講する。	講義に集中できたか、自分の興味・関心との適合度などをアンケート

			トで確認する。
60分	昼食会を通しての交流	学食での昼食を体験しながら大学関係者と話す。	大学関係者と話がしやすい雰囲気を作る。
90分	キャンパスツアー	大学の施設や部活動見学を含み、12のグループ(1グループ約20名)に分かれて、大学生から案内を受ける。	マナーを守らせ、質問を促す。また、大学生の負担にならないように配慮する。
30分	大学生との交流	グループごとに、大学生から高校生活の過ごし方や卒業までに身に付けておくことについてアドバイスをもらう。	グループごとに記録を取らせる。生徒全員が発言できるように留意する。
45分	全体交流会	生徒による感想報告と大学側から高校生へメッセージをもらう。	思い出に残るよき交流の場となるよう配慮する。帰りの諸注意。

#### 事後指導

##### 第11時 体験レポートの作成及びアンケート

一日大学体験の報告(A4版1枚)を作成するとともに、礼状を作成する。  
また、卒業までの過ごし方について深く考えるようになったか、自分の課題を解決していくヒントを得ることができたかを確認する。

#### (5) 評価について

##### <評価基準>

大学について具体的なイメージをもつことができたか。【認知・知識・知識の獲得】  
自分の進路を見据えて、自ら探索していく具体的な方法を考えることができたか。

【知力・思考・企画力】

卒業までの過ごし方について一層深く考えるようになったか。

【知力・判断・価値判断力】

進路に対する興味・関心を高めることができたか。【認知・理解・理解の深化】

#### (6) 考察

一日大学体験入学は、いわば、卒業時点から高校生活の過ごし方を考えさせるとともに、足を運んで調査・研究を進めて行くことの大切さに気付かせ、自ら、また、グループで実際に調査・研究活動を行い、問題解決に向かって学び・考え・判断していくうえでのモデル・出発点となる行事である。そのため、以降の「総合的な学習の時間」で継続的に自らの在り方生き方や進路を考えていく場が必要である。なお、これは、明確な目的意識をもった生徒が多い場合を想定して1年生の5～6月にSTEP1での実施としたが、学校のタイプや生徒の実態に応じて、STEP2の実施も十分可能であると考えられる。

6月以降の「総合的な学習の時間」の内容の一例

グループ編成(6月)・履修ガイダンス(6月～9月)・大学生による進路講演会(6月)  
オープンキャンパス参加(7月～8月)・中間報告会(10月)・職業ガイダンス(11月)・シラバス調査(12月～1月)・グループ別発表会(2月)・全体発表会(3月)

## 5 双方向遠隔授業を利用した「総合的な学習の時間」と「高大連携」

[ 進路啓発：STEP 2～3 ]

### (1) 設定の理由

近年、多くの高校で高大連携による授業が実施されている。しかし、その主な対象は「教科」との連携で、「総合的な学習の時間」の目標・内容を基に実施している事例は少ない。そこで、今年度から新教育課程で導入された、教科「情報」の学習で培った基礎的な知識・技術と、自分の進路設計を有機的に関連付けるために、高大連携により、自ら学び、考え、主体的に解決でき、さらには表現力が育成できる指導内容の研究・開発を試みた。

### (2) ねらい

大学ではどのような講義や研究が行われているのかを、実際の講義を受講することで理解し、将来の進路選択において的確な選択ができるようにする。

学生と生徒という異なる年齢間におけるコミュニケーションを通じ、様々な価値観を知り、コミュニケーション能力と表現力の向上を図る。

大学進学以外の道を希望する生徒に対しても一般教養としての知識を高める。

### (3) 展開

#### 実施形態

ア 高校と大学の教室を双方向で結び、大学の教員が担当する講義を受講する。

イ 受講する分野は、高校の教育課程ではあまり学習しないが、生徒が興味をもっている分野（心理学や経営学など）に特化する。

ウ 講義の中における演習活動において、学生と生徒が一つのグループになり、共通の課題演習を、双方向通信を利用して協力しながら取り組む。

実施時期（次の2つのパターンが考えられる。）

ア 特定の曜日・時間帯 イ 夏休みや冬休み等の長期休業中（集中講義形式）

対象と人数 ア 全校生徒 イ 希望する生徒

実施場所 双方向通信ができる環境をもつ教室

担当 進路指導部、講義内容や情報通信関連の知識をもつ教員

生徒への指導事項

ア 事前指導 参加者の募集、事前説明会（講義方法の説明や受講前アンケート）の実施

イ 受講中 ワークシート等の利用による講義記録を記入させる

ウ 事後指導 講義記録、感想文、アンケートの回収

### (4) 評価について

#### < 評価基準 >

大学ではどのような講義や研究が行われているか理解できたか。

【技能・技能・情報収集力】

大学の講義を受講することで、自分の進路選択の一助とすることができたか。

【知力・判断・情報活用力】

一般常識としての知識を身に付けることができたか。【認知・知識・知識の獲得】

意欲的に受講することができたか。【情意・意欲・積極性】

双方向の利点を活用し、受講生間のコミュニケーションをとることができたか。

【情意・態度・コミュニケーション能力】

### (5) 考察

双方向遠隔授業の効果

ア 高校、大学の双方が期待できる効果

(ア) 講義をリアルタイムに受講できることから、教員同士及び受講者間で一体感が生まれる。

イ 高校が期待できる効果

(ア) 大学に出向いて講義を受けに行く必要がなくなる。

(イ) 諸学問における基礎的な理論を学ぶことができ、思考や活動の幅が広がる。

(ウ) 学生・生徒間で共通の課題演習を行うことから、その活動を通じて様々な価値観の理解、コミュニケーションの方法、表現方法を学ぶことができる。

ウ 大学側が期待できる効果

(ア) 出張講義など、出向いて講義をする必要性がなくなる。

(イ) 今の高校生の行動や価値観などについて理解でき、今後の大学教育における講義内容や展開方法の検討等に役立つ。

(ウ) 受講している生徒の反応がリアルタイムに伝わり、講義内容のレベルなどが適切かどうかを即座に把握することができる。

(エ) 演習・実験が重視される研究分野では、研究のための事例が多く得られる可能性がある。計画・実施に向けての検討事項や留意事項

ア 大学側に「総合的な学習の時間」は高校の教育課程の中でどのような位置付けがされているのかを十分に理解してもらう必要がある。

イ 双方向遠隔授業を利用した講義の展開は、双方がさらに充実した教育実践の方法を考えていくための方法を研究しているという共通理解が必要である。

ウ 内容や教材は、高校生が容易に理解できるものを提供してもらう必要がある。

エ 講義の随所に、質疑応答や、考える時間なども多く取り入れてもらう必要がある。

オ 高校側が大学側にあらかじめ提供しておいたほうがよい情報

(ア) 受講の理由 (イ) 受講する分野に関する興味・関心の度合い (ウ) 受講する分野に関する基礎知識をどの程度もっているか (オ) 受講者の構成 (カ) 教室の付帯設備等

カ 計画・実施に際して、高校と大学の当事者間で協定書を作成しておく必要がある。

キ 共同で教材などのコンテンツの開発を行う場合、著作権などの権利の所在、利用方法などをあらかじめ明確にしてから共同開発を行う必要がある。

ク 双方向通信における技術的側面は、双方の施設設備を有効に活用・補完ができるように、中・長期、短期的な計画を立て、計画的に予算請求や執行をしていかななくてはならない。

ケ 受講後の単位の認定については、「総合的な学習の時間」の単位修得に必要な時間の一部として認定するなどの方法が考えられる。

コ 年間指導計画における配当時数については、大学が講座として開設している時期・期間によって左右されるが、すべての内容を受講するか、一部期間の一部内容を受講とするかを大学と事前に調整をし、配当時間を検討していく必要がある。

『経年モデルプラン』との関連

大学の講義を受講したいという興味・関心をもっている段階の生徒は、将来の進路設計をある程度描くことができている生徒である。したがって、本展開は、進路を確定するための有効な手段となる。また、現代の高校生の課題とされる、コミュニケーション能力及び自己表現力の向上のための一つのステップづくりの役割を果たしている。このことから、「進路啓発：STEP 2～3」の段階の生徒に有効なものとなると考える。

## 6 自由研究～課題解決型「総合的な学習の時間」～〔 興味・関心：STEP 〕

### (1) 設定の理由

「総合的な学習の時間」において、身に付けるべき能力として「生きる力」があげられる。課題解決能力の向上は、その中で重要な能力の一つであるといえる。小・中学校では、課題解決型の「総合的な学習の時間」を行っている学校が多くある。高等学校においても、課題解決能力の向上は今後の進路決定や人生の様々な場面において必要であるといえる。そこで、発達段階に応じた、さらに深まった形での課題解決型「総合的な学習の時間」を設定した。大きな目的として、課題設定から課題解決までの一連のプロセスを経験することによる、課題解決のためのスキル習得、および調査・研究活動による自らの興味・関心の深化を設定した。これらの目的を達成するために、「自ら考え、行動する」、「他との関係を大切にする」、「責任をもつ」、「挑戦する」というキーワードを基本理念として設定した。

### (2) ねらい

自らの興味・関心を明らかにし、そこから自分の課題を設定する。

自分自身で考え、行動する積極性を身に付ける。

学校内だけでなく、外部とのかかわりを積極的にもつ。

グループ内の自分の役割を、責任をもって行うことのできる態度を身に付ける。

「未知」の事柄に関心をもち、課題解決に向け積極的に行動する能力を身に付ける。

調査・研究活動を通じて、自らの興味・関心をより深める。

毎時間の活動の記録をとることで、継続的な行動の方法を身に付ける。

### (3) 展開

#### 準備と方針

ア 分野を7分野（1．地域、2．国際理解・国際交流、3．健康・食、4．福祉・介護、5．環境・エコロジー、6．社会問題・教育問題、7．在り方生き方）に分類する。

イ 生徒は、各分野に分かれ、分野別に活動することとする。

ウ 各分野に分かれた生徒の人数に応じて、担当教員を配置する。教員は分野ごとに、課題設定や調査・研究の支援および助言を行う。

エ 調査・研究の最終形態は発表とする。発表の方法は、多様な形態（コンピュータプレゼンテーション、VTR、寸劇など）を用いて行うことを推奨する。

オ 毎時間の取り組みを記録する個人ファイル、グループの活動を記録するグループファイルを用意し、活用する。

カ 相互評価を積極的に行うことによって、他者を評価すること、他者の評価を受け入れ自己を改善することを体験する。

キ 自己評価を行い、一年間の活動を振り返り、今後の課題を発見する。

#### 留意点

ア 興味・関心を中心としたグループとなるよう、支援する

イ 指導は、調査方法などの指導を中心とする。

ウ 積極的に校外に出て、外部とのかかわりをもつことを推奨する。

## 一年間の流れ (STEP1 の例)

<b>第1段階(興味・関心の明確化と課題設定)</b> 12時間 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野の専門家を招聘し、体育館で講演会を開催する。</li> <li>・担当教員の高校時代に感じていた興味・関心の発表を聞く。</li> <li>・生徒の興味・関心に関するアンケートを行い、集約したプリントで生徒に提示する。</li> <li>・仮のグループでブレインストーミングを行い、生徒の疑問、興味・関心を深化する。</li> <li>・興味・関心の近いもの同士がグループを形成し、グループごとに興味・関心を共有し、テーマ設定、研究計画を行う。</li> <li>・分野ごとにテーマに関する中間発表会を行い、相互評価を行う。</li> </ul>
<b>第2段階(グループによる調査・研究活動)</b> 14時間 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画をもとに、グループごとに調査・研究を行う。</li> <li>・調査・研究は、校内の図書館パソコン室のインターネットなどを用いる。インターネットの情報は各サイトの信頼性を確認する。</li> <li>・必要に応じて、校外の専門家への訪問・調査や、校外の図書館を利用するなど、校外活動を積極的に推奨する。</li> <li>・分野ごとに中間発表会を行い、相互評価を行う。その結果を基に、追加研究の計画を立案する。</li> </ul>
<b>第3段階(まとめと発表)</b> 9時間 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の中間発表会をうけ、追加研究を行う。</li> <li>・分野別発表会を行い、分野内でグループ間の相互評価を行う。</li> <li>・各分野の中で優れたものを集め、全体発表会を行う。オリジナリティーあふれる発表となるよう支援する。</li> <li>・自己評価を行い、1年間の活動を振り返る。</li> </ul>

### (4) 評価について

次の方法で評価を行う。

- ア 各自の活動を毎回ファイリングすることによって、活動を評価する。
- イ グループのメンバーとの相互評価によって、グループ内での活動を評価する。
- ウ 他のグループとのグループごとの相互評価によって、グループの活動を評価する。
- エ 自己評価を行うことで、1年間の自己の活動を評価する。

#### <評価基準>

自ら考え、行動することができたか。【情意・意欲・創造力】

学校内及び外部の人との関係を積極的にもつことができたか。

【情意・態度・コミュニケーション能力】

責任をもって行動することができたか。【情意・態度・社会性】

興味・関心に対して積極的に活動することができたか。【情意・意欲・積極性】

### (5) 考察

高等学校の課題解決型「総合的な学習の時間」は、小・中学校から行われてきている「総合的な学習の時間」から連続性を有しつつさらに発展したものと言える。そのため、より深く自らの興味・関心と向き合うことが重要になってくる。ここでは、主に「STEP1」自由研究における活動を紹介したが、「STEP2」、「STEP3」と進むにつれて、より発展した調査・研究活動にする必要がある。たとえば、個人の興味・関心があきりしてきた段階で、活動単位を個人にすると、より深い調査・研究活動が展開されると思われる。

また、課題設定の際に「大テーマ」を設定すると、課題設定の際に大テーマと個々の興味・関心を結び付けた調査・研究活動となると考えられる。さらに、発表形態を論文作成とすることで、論文作成の力を育てることも可能である。このように、様々な変化を加えながら、多くの実践を重ねることによって、課題解決型「総合的な学習の時間」に対するより良い支援方法が確立され、より高いレベルでの課題解決型「総合的な学習の時間」が行われることを期待する。

## 7 ボランティア活動～高齢者介護を考える～【 興味・関心：STEP1】

### (1) 設定の理由

現代社会では、私たちはややもすると経済力や物質の豊かさだけに目を奪われてしまい、他に目を向けない傾向がある。そして、社会的な弱者の立場におかれている人たちを軽視しがちな傾向もある。日本は高齢社会になり、高齢者が増加してきている。現代社会において、高齢者の生活を助け、協力することは大切なことである。高齢者の生き方から学ぶべき多くの点もある。生徒たちが社会的な弱者の立場におかれている人たちと協力し、一緒に体験をすることによって思いやりや他者への尊敬の念をもち、自分の生き方を振り返る機会をもつことはとても重要である。そうしたことにより、いずれは社会に対して貢献していこうという態度を養うことができる。今、知識を教えるだけの学習指導を改め、生徒自らが考え、実践する学習活動が望まれている。この高齢者介護を体験することによって、自分たちの生き方を見つめ直し、学べるものがあると考えた。したがって、次のような高齢者介護の体験を自分たちの在り方生き方を考えていくことができる実践例と考え、このテーマを設定し学習した。

### (2) ねらい

介護体験を通して、自分たちの在り方生き方について考える。

多くの人とかかわる経験を通して、生徒自らが生きる力をはぐくむ。

人生で大切なものが何であるかを自ら見つめ、考える。

### (3) 展開

事前準備と指導（6～8時間）

ア 話し合い（2～4時間）

(ア)意欲の確認...真剣に実習の姿勢について十分話し合っておく。

信頼、責任をもった行動をとることなど。

(イ)ボランティアの内容を生徒に考えさせ、調べさせる。

イ 挨拶、礼儀、マナーなどの事前学習（4時間）

(ア)はっきりした声で話す。

(イ)生徒自身から話しかける。

(ウ)車いすを動かす際は、相手に声をかけてから移動する。

(エ)相手の意思に反することはしないようにする。

(オ)相手を不愉快にさせる言葉は慎んで、できる限り気持ちを明るくするような会話を心がける。

(カ)高齢者は声が出にくくなりがちなので、返事を促すような話しかけを心がける。

(キ)分からないことがあったら、職員の人に聞く。

(ク)車いす体験学習や高齢者歩行体験学習などの事前学習を心がける。

ウ 場所...どのくらいの距離なら行けるか。

エ 日時、日数...体験する時期を決める。

オ 目的...何のために体験するのか。

カ 日時・日数・人数・持ち物など...高齢者施設への連絡。

施設での高齢者介護の体験（6～8時間）

ア 2時間程度の介護体験を3～4回実施する。

事後指導（6～8時間）

ア 話し合い---良かった点、反省すべき点などを出し合う。

イ お世話する際のより良い方法などを調べる。

ウ レポートにまとめる。

エ 展示などで発表し、他の生徒同士が人に対する思いやりを啓発し合う機会を作る。

指導上の留意点

ア 老人ホーム訪問の際は、必ず前もって次のことを指示する。

---持ち物、服装、施設の職員の指示に従うなど。

イ 課題をもって自ら動くように、働きかける。

ウ 責任をもった行動をとることが自分の成長に役立つことを念頭に置いて介護に取り組むように指導する。

#### (4)評価について

<評価基準>

高齢者やそこで働く方々の現状や課題を理解しようとしたか。【情意・関心・課題発見力】  
取り組んだ活動を丁寧に整理し、成果や問題点をきちんと把握できたか。

【知力・判断・情報活用力】

高齢者施設で感じたことや考えたことを、今の自分の姿と照らし合わせながら考えようとしたか。【知力・判断・価値判断力】

今回の活動を契機に、今後の自分の生き方を、深く、または広い視野で考えることができるようになったか。【認知・理解・理解の深化】

#### (5)考察

経年モデルプランの「興味・関心」における学習は、STEP1の「自分を見つめよう」からSTEP3の「自分の生き方を実現しよう」までの学習が発展的に繋がるためのものである。興味・関心を基に自分を見つめ、視野を広げることで、自分や社会を客観視できる目が養われ、将来の自分へと視野を広げられる。

継続的に、発展的に学習が困難な学校でも、体験学習へ導くことは、生徒にとって有効な学習の手段になる。生徒は興味・関心のある講座を自ら積極的に選択し、活動するようになるからである。最初は大変さや困難さを伴うが、後にそれが生徒に大きな一つの感動となる。それはこの体験を基に自分の生き方を考える時、計り知れない指針を与えてくれるものとなるからである。

## 8 文化・教養と人間(講座別体験学習・課題学習)(興味・関心:STEP1~2)

### (1) 設定の理由

これといった目標もなく入学し、入学後もその目的が見いだせない生徒は、勉強に対する興味を失っていることが多く、物事に対する関心の幅も狭い。

しかし、そのような生徒も学校を卒業すれば、社会に出て行かなければならない。そのためには自分の興味・関心がたとえ狭くても、社会とつながる興味・関心のある分野をもつことが必要であろう。

そこで、自己の特性を把握し、関心のもてる分野について主体的に学習する力量を養い、生徒が望むならそれを生かした進路選択もあり得よう文化・教養的な諸領域の中から生徒が自ら課題を設定し学習できるような内容を考えた。

### (2) ねらい

体験を通して、自己の特性にあった学習領域を見付け出し、課題を設定する力を養う。

### (3) 展開

#### 実施の概要

ここに示すのは進路の実現のための1分野として行う例で、「総合的な学習の時間」を年間35時間実施する場合に、うち18~20時間をあてることを想定している。

生徒は設定された文化・教養的な講座のいずれかに参加し、学習に取り組む。実施形態は全学年合同とし、生徒の講座登録は年度当初に行う。あらかじめ登録講座を決定するのは出席の把握、必要なもの等の準備の都合などのためである。ただし、受講後に興味の方向が変わる場合もあるし、他にも受けたい講座があるということも考えられるため、登録後に学期に1回、期間を決めて登録講座の変更を可能にする。

単位の認定については1回の出席を1ポイントとし、一定のポイントを獲得した場合に認定の対象とする。また、学期末ごと総括の時間を設けて、発表会、レポート等でまとめを行う。

#### 1年間の流れ

月	準備・内容	留意事項
3月	年間計画決定	「総合的な学習の時間」全体の計画を決定する。
4月	教員に対する講座内容の調査 生徒に対する講座の予備調査 設置講座の決定	各教員が複数の講座を考える。 上記講座の中で希望をとる。 予備調査などを参考にする。定員を決定し、活動場所も調整する。
5月	ガイダンス(講座の説明会)	教室などに分かれて担当教員が内容、活動場所、定員、費用、準備するものなどを説明する。生徒は2つ以上の講座の説明を聞きに行く。
6月	講座ごとの活動開始	
1月	次年度の年間計画(案)	「総合的な学習の時間」全体の計画を提示する。
3月	アンケートの実施、集計	次年度に設置して欲しい講座、総括のやり方など。

設置する講座と内容（6つの講座と内容）

講座名	内 容
食文化と人間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お菓子を作ろう...洋菓子や和菓子など、簡単なものから多少手間のかかるものまで作って試食してみる。また、材料の配合によって、お菓子のでき方がどう変わるかなども試してみる。</li> <li>・日本そばを打ってみよう... 日本そばを打ってみる。出来上がったそばを試食する。</li> <li>・世界の料理で世界を一周！...世界のいろいろな国・地域の料理を作り、試食する。スペイン、アラブ、インドなどいろいろな地域を取り上げ、料理で世界旅行をする。</li> </ul>
労働と人間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手芸・物づくり...ビーズ指輪、写真フレーム、小さなおもちゃなどの作品を一人一人工夫して作る。</li> </ul>
言語と人間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刺客荊軻の世界...史記「刺客列伝」の中の荊軻を読み進め、刺客荊軻の心情について一人一人考えて、話し合う。</li> <li>・実用ペン習字...ペン字（ボールペン）を用いたビジネス文書を作成し、実務的な知識や技能を習得する。</li> </ul>
身体と人間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内スポーツを楽しもう... 体育館、格技棟でスポーツを楽しみ、そのルールを研究する。また、集団生活の基礎を身に付ける。</li> <li>・屋外スポーツ...屋外でソフトボールや野球を楽しみながら、その技術について研究する。チームスポーツを通して、集団生活の基礎を身に付ける。</li> <li>・ストレッチ&amp;リラクセーション...ヨガの要素を取り入れたストレッチを正しい呼吸法とともにやる。筋肉だけでなく、心もリラックスする時間をもつことによって自分自身と向き合い、健康への意識を高める。</li> </ul>
芸術と人間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生け花の世界...日本の伝統文化の生け花を体験する。また、生け花の歴史、技術を学ぶ。</li> </ul>
科学と人間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不思議発見・なぜなに教室...ふだん何となく疑問に思っていること、どうしてもなのか分からないことなどを自分で調べる。</li> </ul>

(4) 評価について

< 評価基準 >

意欲的、主体的に学習に取り組むことができたか。【情意・意欲・積極性】

取り組んだ内容から自分の興味の幅を広げることができたか。

【知力・判断・価値判断力】

学期末にその学期に取り組んだ内容についてまとめて発表することができたか。

【技能・表現・発表力】

(5) 考察

ここでは、主に STEP 1で行うものとして取り上げた。ただし、講座によっては一部 STEP 2の内容まで入っている。生徒の状況によって興味・関心の分野に集中して深く学習するのならば、「総合的な学習の時間」のすべてをこのような形で行うことも可能であろう。また、同じ講座を2年以上連続して登録する生徒については、計画段階から自らのテーマを考えさせて取り組ませれば、STEP 3まで指導を深めることもできる。

## 9 トピック解説講座 [ 教養・常識：STEP 2 ]

### (1) 設定の理由

生徒にとって、社会のいろいろな出来事や情報はあまりにも膨大かつ多岐にわたっている。その内容の複雑さや変化の速さは手掛かりなしに把握するのは大変難しい。例えば受験を控えて「小論文」の指導を始めるとあまりにも基本的な知識に乏しい者が多く、彼らの自分の興味ある特定の分野については詳しくても、ごく限られた狭い世界で自己完結しがちであるという傾向を改善する必要を痛感させられる。

広い世界に目を開かせ、多様な可能性を発見させるために、多彩な学問分野や社会活動がダイナミックに展開している現状に目を向けさせることが重要である。生徒の興味・関心等に基づいて、人文科学的分野、自然科学的分野、社会科学的分野を横断的に扱い、生徒たちに学問や産業の可能性や面白さを感じ取らせる。また、生徒たちに社会的な使命感を喚起することを目的として、「総合的な学習の時間」に実施する基本的、一般教養的事項についての解説講座を考えた。

### (2) ねらい

様々な学問や産業について、幅広く興味をもつ契機とする。

自分の知識や理解の到達度を正確に知り、その深化を図る。

自分の考えについて、適切に表現する力を養う。

記録を適切に整理・保管し、活用する知識・技術を身に付ける。

### (3) 展開

準備 (1時間)

#### ア 題材を決定する

生徒が興味・関心をもつ題材を集約するためにアンケートを行う。現代社会を多面的に理解することにつなげるため、新聞やテレビのニュースなどで話題に上る「トピック」＝「時事問題」や、「第一線で活躍されている人の話題」なども積極的に紹介する。

#### イ 講師の選定と依頼

校内外の人材を活用する。他校との連携も考慮する。

#### ウ 資料の作成

質問事項記入のための用紙、感想記入のための用紙を用意する。

事前指導 (2時間)

#### ア 資料の配布と検討

講演内容の事前知識として、関連のある新聞記事などを集めさせ、プリントして配布する。重要な観点をまとめさせ、クラス内のグループ単位でお互いの考えを深める話し合いを行う。

#### イ 「映像教材」の活用

背景となる知識をもたせるため、実際の講義を受講する前に必要に応じてテレビの報道特別番組などを使用する。

#### ウ 質問を考えさせる

事前学習として配布した資料等で自己の知識を確認し、疑問点・質問等を整理させる。代表的な質問やユニークな疑問点などをお互いに話し合い、整理させる。

講義、講演 (3時間)

#### ア 講義・講演を聴く。

#### イ まとめておいた質問事項などについて、10～15人の生徒が質問をする。

#### ウ 質問事項に対する回答を整理し、感想を書く。

事後指導（１時間）

ア 感想の記入

講演を聞いての感想を書かせ、良い着眼点などを評価する。また、必要に応じて感想をまとめ、「トピック講座ニュース」などの形で発表する。

イ レポート作成

グループや個人で、A4判1～2枚程度のレポートを作成する。

ウ ファイルの保管

この感想やレポートは各自でファイルさせ、ポートフォリオ形式で保管し、各自でその後の小論文作成に活用する。

指導上の留意点

ア 質問や感想は、なるべく具体的に書き込ませる等工夫する。

イ 講師が外部の人物になる場合も多いので、連絡や打ち合わせを綿密に行うよう留意する。

（４）評価について

<評価基準>

基礎的な知識を正確に理解するための資料の収集を積極的に行うことができたか。

【情意・意欲・積極性】

事前に渡された資料の活用ができたか。【知力・判断・情報活用力】

講義の内容を積極的に理解しようと努力したか。【情意・意欲・積極性】

自分で独自に学習を深められたか。【知力・思考・企画力】

自分の意見を適切にまとめ、正確に伝えるための工夫を行うことができたか。

【技能・表現・発表力】

人の意見や考えを理解し、その良いところを学び取ることができたか。

【知力・判断・相互評価力】

記録の整理や活用を効果的に行うことができたか。【技能・表現・整理力】

（５）考察

この解説講座は生徒の状況に応じて STEP 1 から 3 までに対応できる。各校の教育課程やその時々の時事問題等に応じて柔軟にテーマを設定できる。

STEP 1 では、自分の中の気付かなかった興味・関心を掘り起こすという意味で、主に様々な学問や研究の現状と可能性に目を向け、自ら課題を見付け、自ら学んでいく基礎的な力を付けることができるように設定すると効果があると考えられる。

STEP 2 では、学問・研究と種々の仕事や産業が有機的に結び付いている題材を選ぶと効果的だと思われる。これらに関わる仕事に真摯に取り組んでいる人物の講義を中心にとらえ、多くの人の努力と働きによって社会が支えられていることを理解させる。また、講義の前後の学習などを通して、学び方やものの考え方を身に付ける契機とする。

STEP 3 では、生徒に現代の日本社会や国際社会が抱える諸問題を提示し、いずれは当事者としてかかわっていくのだという自覚をもたせ、自己の在り方生き方について考えさせるような講座とする。

取り上げる事例の案として以下のようなものを考えてみた。

「文学作品から読み解く政治」、「確率論を生活に役立てる」、「遺伝子工学と医療」、「ロボットと快適な暮らし」、「日常に生かす心理学」、「ERで働く」、「青年海外協力隊員体験談」、「砂漠緑化」、「先端技術と職人の技」、「世界平和を祈る行事(国連平和活動)」、「ペアレント活動(途上国教育援助)」、「海外NPO活動体験談」、「国連で働く」など。

## 研究のまとめ

「総合的な学習の時間」については、一部の先行実施校を除き、今まさに各学校で試行錯誤をしている状況である。委員会組織を中心に計画・実施・検討を繰り返している学校、実習体験・ボランティア体験の受け入れ先を開拓している学校など、多くの学校がこのような状況にある。今回、私たちはこの研究を通して、「総合的な学習の時間」の在り方について各学校で行われているのと同様な議論を交わし、ある一定の方向性を示すことができたと考えている。それは、生徒の発達段階に応じて、言い換えれば、目の前にいる生徒の状況に応じて指導内容や方法は異なっても、生徒の人生全体を見通した場合には、「社会を構成する一人前の大人になるにあたって培ってほしい力」を身に付けることは必要であり、そのための支援として「総合的な学習の時間」が有効活用できるという考え方である。この考え方に基づき作成した『経年モデルプラン』を活用することによって、その学校や生徒の状況に応じた指導内容や方法を具体化するヒントが得られると考える。ここでは、研究のまとめとして、『経年モデルプラン』活用の考え方をいくつか提案したい。

### (1) 「分野 進路啓発」へ特化した指導

これは、明確な目的意識をもった生徒が多く、進学重視や就職重視など学校としての方向性もはっきりしている場合に提案する。そして、自分のやりたいことが明確なのであるから、「STEP 1 自分を見つめよう」に時間をかけるよりも、「STEP 2 視野を広げよう」や「STEP 3 自分の生き方を実現しよう」により多くの時間をかけるべきである。

なお、こういう場合には、目的意識が明確なのであるから、進路啓発に関することは自分の時間に取り組むようにして、「分野 常識・教養」に特化するという考え方もできる。社会性や倫理観の欠如が懸念される今日、この考え方も一つの選択だろう。

### (2) 「分野 自己理解」と「分野 進路啓発」を中心とした指導

高校に入学した目的意識が希薄な生徒が多い場合には、こうした指導を提案する。この場合、特に「STEP 1 自分を見つめよう」と「STEP 2 視野を広げよう」に多くの時間をかけ、生徒に自ら考える姿勢をもたせる工夫が必要だろう。

### (3) 「分野 興味・関心 課題別体験学習」に特化した指導

生徒の基本的な生活習慣を確立させ、学校生活への定着を図る契機として活用したい場合に提案する。生徒個々の興味・関心に応じた講座を多数用意し、そこでの体験学習や調べ学習を通して、学ぶことの楽しさを体験させ、学校生活への定着を図る契機としたい。また、「STEP 1 自分を見つめよう」から「STEP 3 自分の生き方を実現しよう」へと導いていくための工夫も必要だろう。

### (4) 「分野 のSTEP 1」から「分野 のSTEP 3」までのすべてにわたって、その目的に合った講座を多数設定し、生徒に自由に選択させる方法による指導

生徒の状況に大きな差があり、それぞれの状況に合致した授業を実施したい場合に提案する。この場合は、一つの講座を修了するごとに一定のポイントを与えて、そのポイント数により単位の修得を行うというような工夫が必要だろう。

ここにあげた考え方以外にも、『経年モデルプラン』活用法はたくさんある。本報告書は、『経年モデルプラン』をはじめとして、各学校での活用に資することができるよう検討したものである。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録  
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14  
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 勝田印刷株式会社